

患者尊厳を守る取り組み ～身体抑制ゼロを目指した病棟ラウンドを通して～

(地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 看護部)

領家 健 森川 久美 上野 美香 西木 小百合 前田 景子
建家 一美 坂口 かおり 石田 寛人

要 旨

医療を提供する上で、患者の尊厳が守られているか確認し、倫理を維持していく必要がある。患者尊厳を守り、生活力を低下させない自立を支える看護の実践と尊厳を保障する仕組みの構築を目的として、今年度、看護部倫理委員会では病棟ラウンドを行い抑制について倫理的視点で検討されるよう支援した。またあわせて倫理カンファレンスのファシリテーターとなる人材育成、身体抑制率評価、身体抑制関連書類監査、記録監査を行なった。多職種が参加するカンファレンスでは、各専門分野から情報提供を行ない、最小限の抑制を検討することで、専門性に特化したカンファレンスが行えていた。抑制実施率は減少しているが、転倒転落件数に関しては大きく変化はないことから安全を保ちながら最小限の抑制を検討できていることがデータから推測できる。抑制率の減少は継続した各ラダーOJT（On-the-Job Training）による倫理教育、定期的な倫理研修の実施から、スタッフの倫理意識が高くなっている結果と考えられる。多職種で身体抑制カンファレンスを実施する事は、様々な専門性から身体抑制解除のための支援策の幅を広げ、組織的に患者の尊厳を守ることに繋がる。患者の尊厳を守るために倫理方針にそった医療提供を行ない、普遍的な基準として倫理感を養う教育の場が必要である。
(京市病紀 2019；39(1)：32-34)

Key words：患者尊厳，身体抑制，身体抑制ゼロ，看護倫理，ウォーキングカンファレンス

緒 言

当院では2013（平成25）年度看護部目標に転倒転落ゼロ看護を掲げた。これは転倒をゼロにすることはできないが、看護倫理と提供する看護の質を軸に置き、身体抑制ゼロを目標に看護展開することを意図したものである。現在も身体抑制ゼロへの意識は根付いており、「ウォーキングカンファレンス」「転倒防止カレンダー」「24時間リハビリ」など、各部署が抑制ゼロに向けた取り組みを継続している。

京都市立病院機構の倫理方針には、治療を受けるに当たり、人格や価値観が尊重されると明記され、また身体抑制についてはミトンや4点柵等の身体抑制は原則として行わない。やむを得ず行なうときは、多職種カンファレンスで検討したうえで、次の要件をすべて満たす場合に限り必要最小限の方法で行う。この場合、身体抑制を行なうことについて、患者への説明を行ない、同意を得るものとする。身体抑制を行なっている間は、毎日診察を行ない、多職種カンファレンスを開き、身体抑制の解除の可否を検討し、経過を記録すると明記されている。この倫理方針に従い、患者の尊厳が守られているか確認し、倫理を維持していく必要がある。

今回、看護部倫理委員会の取り組みを通して、当院の身体抑制実施の現状について報告する。

目 的

患者の尊厳を守り、生活力を低下させない自律を支える看護の実践と尊厳を保障する仕組みの構築

方 法

- ・病棟ラウンドを行い、身体抑制カンファレンス、ベッドサイドラウンド等の現状を把握し、抑制について倫理的視点で検討されるよう支援する。
対象部署 3A病棟、3D病棟、6C病棟
- ・教育委員会、退院支援リンクナース会での倫理研修を開催し、倫理カンファレンスのファシリテーターとなる人材育成を行う。
- ・身体抑制率の評価 2013-2018の抑制実施率比較
- ・身体抑制関連書類、記録監査 抑制実施者の同意書の取得率、同意書の同席者サインの有無、終了期間の記入の有無、抑制理由が適切か、代替ケアの検討の有無、終了予定記入の有無の確認

結 果

3部署のウォーキングカンファレンス、身体抑制カンファレンスに参加した。ウォーキングカンファレンスではベッド周囲の環境調整、心不全患者やターミナル患者のフットケア、術後ADLの確認を多視点で行なうことがアセスメントに繋がりを、新人教育の機会ともなっていた。また多職種が参加するカンファレンスでは、理学療法士、薬剤師、栄養士などそれぞれの専門分野からの情報提供を行なうことで、最小限の抑制を検討することや、看護師によるリハビリの検討、L字柵の使用による立位時の安定目的の使用、眠剤の使用時間や内容検討など、専門性に特化したカンファレンスが行えていた。

教育委員会、退院支援リンクナースにJonsen4分割を使用した倫理グループワークを実施した。グループワー

クで、倫理的ジレンマを言語化することを学び、体験することにより、病棟での患者カンファレンスで倫理的視点をもってすすめることがより出来るようになった。

抑制実施率については、2013年15.3%から徐々に減少し、2017年10月から2018年11月は図1のように7.2%である。この間の転倒転落件数は2016年291件、2017年343件、2018年322件であった。抑制実施率は減少しているが、転倒転落件数に関しては大きく変化はないことから安全を保ちながら最小限の抑制を検討できていることがデータから推測できる。

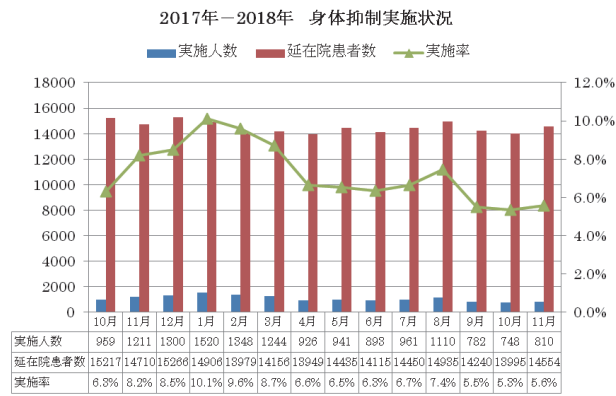


図1

身体抑制関連書類については図2の結果となった。同意書の取得はできているが、終了期間の記入率が低い。また記録についても抑制を行なう理由は明記できるようになってきているが、抑制終了するための検討が記録には見えていない。

身体抑制に関する同意書、記録監査

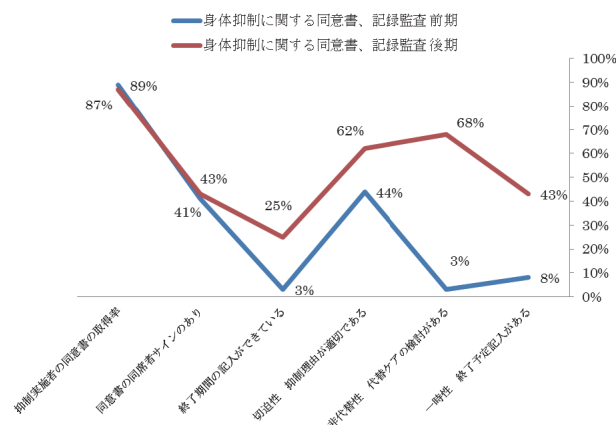


図2

考 察

抑制率の減少は継続した各ラダーOJT（On-the-Job Training）による倫理教育、定期的な倫理研修の実施から、スタッフの倫理意識が高くなっている結果と考えられる。また理学療法士の介入によるリハビリ進行状況からの抑制の必要性判断、薬剤師による薬剤の妥当性や副作用考慮、栄養士による栄養評価など、抑制除去に関する専門的な知識を持ち寄り、多職種で身体抑制についてアセスメントするカンファレンスが抑制率の減少の要因の一つとなっている。

多職種で身体抑制カンファレンスを実施する事は、様々な専門性から身体抑制解除のための支援策の幅を広げ、組織的に患者の尊厳を守ることに繋がる。多職種でカンファレンスできている部署はまだ一部であり、多職種で行なうカンファレンスの必要性を伝え、各部署で検討するよう周知していく。

また、やむなく身体抑制を実施する場合には、患者・家族が納得できる説明を行うためにも必要書類の記載など診療部とも連携し仕組みを構築していく必要がある。

結 論

患者の尊厳を守るために倫理方針にそった医療提供を行ない、普遍的な基準として倫理感を養う教育の場が必要である。多職種カンファレンスの実施は、患者にとって安全面、倫理面でも最善な対応を検討する上で有効であり、倫理教育の場としても活用できる。

「尊厳」とは何かを自己に問い続けることが、医療人としてのあるべき姿である。

Abstract

Approach to Protect the Patient's Dignity
—Aiming at Zero Physical Restraints by Ward Rounds—

Ken Ryouke, Hisami Morikawa, Mika Ueno, Sayuri Nishiki, Keiko Maeda,
Kazumi Tateya, Kaori Sakaguchi and Hiroto Ishida
Department of Nursing, Kyoto City Hospital

When providing medical care it is important to confirm that the patient's dignity is protected and ethics is maintained. The Ethics Committee of the Department of Nursing conducted a ward round on the physical restraints from the ethical view point, with the aim to establish a system in nursing practice for supporting the patient's independence by preventing loss of vitality and for guarantee of the patient's dignity. In addition, we inspected the training of persons to become facilitators of the ethical conference, evaluated the rate of physical restraints and audited the documents concerning physical restraints. At the conference consisting of participants in multidisciplinary occupations, information was provided from each specialist's field, and the issue on reducing physical restraints to a minimum could be discussed efficiently. The decrease in the rate of restraints without much change in the incidence of falls indicates that the physical restraints could be reduced without jeopardizing the safety of the patient. The lower rate of restraints was considered to be the result of the higher ethical consciousness of the staff attained by continued periodic ethics training and on-the-job training following the nursing clinical ladder program. The conference on physical restraints with participants from multidisciplinary fields will broaden the range of measures to reduce the physical restraints and systematically protect the patient's dignity. A training field is necessary to nurture the ethical concern as a universal standard to provide medical care along the ethical guidelines that will help protect the patient's dignity.

(J Kyoto City Hosp 2019; 39(1):32-34)

Key words: Patient's dignity, Physical restraints, Zero physical restraints, Nursing ethics, Walking conference